

平成17年 3月31日  
原子力安全対策課  
(16-136)  
<10時資料配付>

## 大飯発電所3号機の新燃料輸送について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

大飯発電所3号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力118.0万kW）は、本日、新燃料集合体36体を受け入れた。

#### 1. 輸送年月日

平成17年 3月30日 06時40分 三菱原子燃料(株) 発  
(茨城県那珂郡東海村)  
平成17年 3月31日 07時00分 大飯発電所 着

#### 2. 輸送数量等

新燃料集合体 36体  
輸送容器 18個

#### 3. 輸送物の種類

A型核分裂性輸送物

#### 4. 輸送方法

陸上輸送

なお、今回は平成15年9月25日に原子炉設置変更許可となった高燃焼度燃料（最高燃焼度55,000MWd/t）を輸送している。

問い合わせ先（担当：鳴崎）  
内線2352・直通0776(20)0314

「輸送における安全性について」

1. 輸送物の種類

A型核分裂性輸送物

2. 輸送容器の概要

型式 ; MFC-1型・・・18個

形状 ; 円筒形

寸法 ; 長さ約5m、外径約1m

重量 ; 約4.2トン（輸送容器だけで約2.8トン）

材質 ; 鋼鉄製

3. 輸送物の安全確認

本輸送物（A型核分裂性輸送物）については、別添に示す国の安全基準を満たすことを、独立行政法人 原子力安全基盤機構により確認されたものである。

4. 輸送上の安全対策

輸送にあたっては、車両の積付け・標識等、輸送上の十分な安全対策を実施している。

なお、万一緊急の事態が生じた場合にも、最寄りの消防・警察・自治体および官庁等に連絡するとともに、適切な措置を取ることにしており、十分な安全対策が講じられることとなっている。

『A型核分裂性輸送物の安全基準』

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」第59条の2に基づき国が定めている『A型核分裂性輸送物』に係わる技術上の基準の主なものは、以下のとおりである。

①線量当量率

表面で、 2 ミリシーベルト/時以下  
表面から 1 m 離れた位置で、 0.1 ミリシーベルト/時以下

②表面密度限度

$\alpha$  線を放出する放射性物質の場合、 0.4 ベクレル/cm<sup>2</sup> 以下  
 $\alpha$  線を放出しない放射性物質の場合、 4 ベクレル/cm<sup>2</sup> 以下

また、A型核分裂性輸送物の試験条件には、

①一般の試験条件

水の吹きつけ試験、自由落下試験、圧縮試験、貫通試験

②特別の試験条件

9 m 落下試験、棒上の 1 m 落下試験、耐火試験、浸漬試験

があり、これらの厳しい諸条件下においても容器の健全性を維持し、臨界の防止を確保するよう、法令の基準値を満足することになっている。